

## 2017年度3年次編入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)	面接	
	狙い・意図	狙い・意図	専門試験作品利用
日本画		提出作品から、表現力、発想力、および色彩感覚を総合的に判断。面接では、本学志望理由、小論文を参考に判断した。	●
油画		提出した作品が当該学年に相当する技術力・表現力を持ちえているか。大学編入後のビジョンはあるのか。普段どのような意図で制作しているのか。美術についてどのようなことを考えているのか。多摩美術大学油画科を選んだ理由が明確かどうか等総合的に判断して採点を行った。	●
版画		面接では、持参した作品を参考に、作品の説明、あるいはプレゼンテーションを含めて進めていった。今まで制作してきた大学での経験や「本学版画への志望動機」など、下記の内容をポイントとして面接試験をおこなった。 ・作品について、自分の意思を明確に述べられているか ・版画の技術力や基礎知識が、修得できているか ・学業や制作に意欲はあるか ・3年次編入試験を受験した理由	×
彫刻			
工芸		なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか。将来の展望などについて熱意と説得力のある答えを望む。 これまで学んだ専門分野での到達度と、さらに今後の本学での専門授業に対応する力をみるため、これまでの研鑽の蓄積がうかがえるファイルや資料の充実を望む。 また、人物から受ける熱意などもあわせて判断する。	×
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか ・3年次に相当する能力を有するか	面接 ・編入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・持参作品による描写力、色彩・構成力等の基礎的造形力の評価	×
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か ・3年次に相当する能力を有するか	・3年次相当の実技力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイルデザイン			
環境デザイン	特別入試の空間デザインの試験は、空間を創造する構成力とデッサン力を見るもので、技術的に特別な練習を重ねないといけない出題ではない。出題条件に対して何を考え、どのような効果を意図したのか、そしてその意図がデッサンにしっかり表現されているかが重要である。 与えられたハガキのダンボール紙とケント紙によって構成する立体作品は、それぞれの素材特性を理解した構成がされているかがポイントとなる。作品の独創性もさることながら、与えられた素材を生かした構成となっていることが大切である。そして制作意図を伝える基礎的なデッサン力を見る。それらは分析力、観察力と、その表現力とによってよいだろう。完成した作品を通して、環境デザインに対する空間的な資質と、さらには創作意欲(熱意)が伝わってくることを期待される。	面接試験では最初に、空間デザイン試験で描かれたデッサンについて、どのようなことを考えたのか、画面に表れていないことも含めて、制作意図を端的に説明してもらう。 その後、面接の大半は「多摩美の環境デザインを選んだ理由」「そこで学びたいと思っていること」「将来の目標」など、いくつかの質問を通して、空間的な資質と、創作意欲を感じられるかを判断する。その際は熱意と情熱をもって、状況に合わせた「自分の言葉」で話をすることも大切なことだと考えている。	●
情報デザイン メディア芸術コース			
情報デザイン 情報デザインコース		・作品は水準以上の質であるか ・作品プレゼンテーションは的確か ・入学後の具体的なイメージがあるか ・卒業後のビジョンがあるか	×
芸術	論述の着眼点が出題内容に対して適切であるか、論旨は明確で説得力があるか、卒業論文を書き上げるにふさわしい能力があるかという点が判断基準となる。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待している。	芸術学科で何を学びたいか、受験生の知的好奇心や学業および芸術への熱意、卒業で何をしたいか、将来の展望等を買問し判定する。	×
統合デザイン	・理解力＝問題の把握・理解が正しいか ・観察力＝日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力＝イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力＝構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点＝事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・授業についていくために必要な技術や知識などを有しているか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	基礎運動能力/身体表現についての発想力、即興力、柔軟性、独創性/台詞へのアプローチ/空間把握能力/コミュニケーション能力/集団創作力。上記の項目を、総合的に採点し、当学科当専攻の2年修了時の基準に達しているかを判断する。	本校、本学科の志望動機/実技試験の感想/演劇と舞踊どちらを専攻するか/演劇・ダンスの経験/将来の進路、表現活動の計画/感銘を受けた映画、演劇とその理由/趣味・特技(楽器演奏、スポーツ等)を題材に対話しながら、表現者として成長するために必要な創作意欲、感受性、発想力を有しているかを判断する。落ち着いた質問の内容をよく把握して回答すること。	●
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザインコース	鉛筆デッサンは、5種類の質感の異なるモチーフを与えた。それらを想定で組み上げることによって空間構成力を、モチーフの異なる質感を描き分ける観察力と表現力を、光をとらえて陰影を劇的に描写できる感性があるかを探る。 舞台美術はプロセニウムを、映像美術はフレーム画面を意識して美術設計を行う。日頃からそのような感覚で空間と対象を見る目を持つことが重要である。また、常に光を意識し独創的でドラマティックな発想をすることが必要である。想定デッサンとなっているのは、モチーフを自由に構成し、情景をも創造してほしいということである。 3年次編入に相当するデッサン力を有しているかも判断する。		-

## 全学科共通小論文

(1) 題:「夢見る自由」という題で、あなたの専門領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。

(2) 出題意図:受験生の「意力」や「計画性」を見る。  
・具体的な夢を持っているか?(意力)  
・専門領域を意識した夢が描けているか?(計画性?)  
・夢に独自性や独創性があるか?(独自性、独創性)(3) 評価基準:受験生の「文章表現力」を測る。  
・論旨が伝わるよう整理されているか?(構文力)  
・人に伝わる文章が書けているか?(作文力)  
・3年次に相応しい語彙を持っているか?(語彙力)